

を立てたれど、追々家屋を毀ち、今は畑地と成りたり。

○青山氏下邸觀音堂

龜尾記に云ふ。青山氏下邸に別莊あり。青山氏の祖豊後所持の觀音堂あり。毎年三月十八日・七月十八日は觀音祭として、諸人參拜の爲め亭内へ入る事を許すとあり。廢藩の際堂宇共に毀ち、今はなし。

○三社町

元祿九年の地子町肝煎裁許附に、三社町とあり。此の地邊は、昔は三社村の地内にて、三社の名は産土神の社號より起れり。今世人此の地邊をば三社と稱し、或は三社臺と呼べり。

○三社村跡

此の村は、石川郡戸板郷内の一村にて、往昔は今三社の社邊に村落ありしかど、追々町地と成りて、町家を建て、遂に村家絶えたりといへり。元祿十四年の郷村名義抄に、此の村に三社宮あり。往古は川原三社村と唱候へども、何頃よりか三社村とす。正保寛文・貞享高辻帳に、三社村と有之。とあり。龜尾記に、三社村は今残らず揚げ地と成りて、

村高は南廣岡に附屬して裁許す。此の三社村有りし頃の農民の子孫、今は湯浦村にあり。といへり。今按するに、三社の村高南廣岡村へ附屬し、遂に三社村は廢村に成りたるもの也。但し其の年曆等の事は未だ詳かならず。三社村の邑名は、越中國礪波郡糸岡郷内に五社村・七社村とて並びあり。此の村名と同意なりといふべし。

○三社宮前

社殿の前通りなる町をば、宮前と町名に呼べり。宮前といふ地名は、能登國鹿嶋郡熊來郷内に宮前村といふあり。此の村は、延喜式内久麻加夫都阿良加志比古神社の社前なる村落なる故、宮前村と呼べり。

○三社神社

當神社は、三社臺七百餘戸の産土神也。従前は三社の宮と稱し、天台宗常光寺別當持の社なりしかど、神佛混淆御廢止に付き、明治二年別當の社僧復飾して神職と成り、社號を三社神社と稱し、同五年十一月村社に列せられたり。當社草創の來歴は、舊記・縁起等傳來せざる故に詳かなる事知れず。貞享二年由來書に、昔養老二年泰澄法師白山三所

明神を勧請し、三社權現と號し、則三社村の氏神とす。と云へり。常光寺記には、草創不詳。往古は石川郡戸板郷七ヶ村の氏神にて、西念新保村に鎮座、後廣岡村の地内金澤町近邊へ移轉す。是今の社地也。と記載すれど、此の傳説は請けがたし。一説に、別當常光寺は、元と白山比咩神社の衆徒なりしが、亂世の頃白山の社僧共悉く散亂せし頃此の地邊に來り、白山三所の神靈をば勧請して居住せり。故に白山三社と稱し、村名をも三社村と呼べりといふ。龜尾記に云ふ。三社常光寺はいにしへ巨剎にて、今の洲崎屋と云ふ洗湯の所にありて、鳥居は玉井氏の邸前にありしと云ふ。正徳年中千年忌の時は、産子地東は圖書橋南は法船寺町の廣みを限る。祭神は白山・八幡・春日の三社也とぞ。とあり。平次按するに、常光寺縁起にも、白山・八幡・春日の三神を祭れるよし記載し、和漢三才圖會には、三社は伊勢熊野・春日也と載せたり。されど貞享二年由來書に、白山三所明神を勧請し、三社權現と號すとあれば、白山嶺上の三所神靈を勧請せしこと著明なり。嶺上の三所神靈をば、三所明神とも三所權現とも稱せり。白山禪頂私記に、先禪頂の

正殿・第二越南地・第三別山・大行事・小白山、已上禪頂の三社、三所權現是也。と見ゆ、源平盛衰記に載せたる木曾義仲の白山願書にも、於三州之馬場・仰感應於三所權現耳。とありて、白山御前・大已貴・別山の三峰の神靈をば三所權現と白山記にも載せたり。また此の三所靈神をば白山三社とも呼べり。故に白山宮莊嚴講中記録に、白山三社之神輿御進發云々。また三宮古記に、白山三社祭或は三社臨時祭などとも見たり。源平盛衰記に、別宮・佐羅・中宮三社の衆徒などいふ事見たり。此の三社はまた異なり。但し是も白山の攝社なり。然るを三社村の三社は、白山・八幡・春日(日)或は伊勢・熊野・春日の三神を祀れるなどいへるものは、皆後世の附會の説にて、取るに足らず。貞享以後にいひ出したる妄誕なる事いひるし。今は即ち白山三社神靈とはなしたり。

○三社常光寺廢跡

天台宗にて、三社白山の別當也。龜尾記に、常光寺は古へ巨剎にて、今の洲崎屋と云ふ洗湯の所にありといへり。右洲崎屋といふは、三社町風呂屋の邸地をいへるなるべし。